

第1号の頃に生まれた赤ちゃんがもう小学3年生

今回は記念すべき100号ということで、第1号の記事を振り返ってみたいと思います。8年前にはこんな記事を書いていた。文字が小さめですが、ご容赦のほどを。

2007年7月1日発行 第1号

TANT キャンペーン

連日、厳しい暑さが続きますが、いかにお過ごしですか。当社では、TANTの発売20周年ということで、7月から9月の3ヶ月間キャンペーンを行なうことになりました。TANTは、世界一のカラーバリエーションの全152色です。また、<70><100><130><180>と厚さの種類も増えました。そして、タントセレクトが昨年秋に発売され、柄のバリエーションも充

TANT はたくさん

TANTといえば、特種製紙さんが製造されている紙です。特種製紙さんは、1926年創業の80年以上の長い歴史を持つ会社です。最近では、4月に東海パルプ(株)さんと経営統合されたのが記憶に新しいですね。また、6月に王子製紙さんと王子特殊紙さん、特種東海HDさんと特種製紙さんと戦略的業務提携の検討開始と資本提携に関する覚書締結をされたそうです。特種製紙さんと、いけばやはり「レザック66」が、一番最初にイメージされる方も多いのではないのでしょうか。ちなみに、御存知の方も多いと思いますが、1966年に発売されたので、「66」とついています。ファンシーペーパーでは、里紙、岩はだ、マーメイド、もみ紙、玉しき、高級印刷用紙では、Mr.B、Mr.S.B、Mr.Bmなどをつくられています。他には、情報用紙や特殊機能紙、紙加工品も作られています。いま日本国内にある紙は約25,000種類と言われています。特種製紙さんではその20%にあたる5,000種類をこえる紙を製造しているそうです。驚きですね。TANTは、ポルトガル語で「たくさん」という意味だそうです。それで、152色のカラーバリエーションがあるのです。152色を、どうやって色の管理をしているかという、人間の目で確認しているそうです。一度に何トンも作るそうですが、最終的には、耳掻きほどのスプーンで微妙な顔料の調整をするそうです。まさに、職人技です。特種製紙さんは職人の集合体だそうです。そのように、高度な職人技に支えられて、徹底した色管理を行なっているため、クレームはほとんどありません。クレームは、ほとんどないのですが、印刷時の注意点として、ファ

実しています。日頃からの感謝の気持ちを込めまして、ささやかですが、キャンペーン期間中にTANTをお買い上げ頂いたお客様全員に、クオカードや粗品をプレゼントさせていただきます。よろしくお願いたします。



ンシーペーパー全体にいえることですが、湿気による波うちが若干おきやすくなっています。対策としては、風入れや、印刷機にのせる直前に開封する、開封してしまったものは、ビニールなどをかぶせて防湿するなどがあります。大柄な模様のファンシーペーパーは、紙自体にデザイン性が強く、印刷によるデザインが入り込む余地が、あまりありません。一方、TANTは模様が落ち着いていて、印刷によるデザインを邪魔せずに使えます。そのため、多くのデザイナーに支持されています。TANTは、印刷適正、加工適正にも優れています。そのため、かなりいろいろな場面で使われています。やはり、上製本の見返しに多く使われています。ハリーポッターなどの多くの書籍に採用されていますね。本屋さんに行けばすぐに見つかると思います。しかし、そのイメージが強く他の用途がなかなか、思い浮かばないのですが、かなり多くにもに使われています。箱貼紙やレターヘッド、封筒、コースター、案内状、小冊子、おりがみ、など数え上げたらきりがありません。また、厚さも<180>発売されて表紙や、小さなギフトボックスなどのパッケージとしても使えるようになりました。ちなみに、<130><180>の色数は50色です。タントセレクトは<70><130>が6色、<100>20色です。アイデア次第で、いろいろなものに使えたいと思います。見本帳や、サンプルを必要の場合は、スギウラ(株)までご相談下さい。可能な限り対応させていただきます。また、ご説明など必要な場合も遠慮なくおしゃってください。

※この記事は、執筆された状況を考慮し、当時のまま掲載しています。

TANTは、今では“特種東海製紙さんが作っている紙”ですが、第1号の頃はまだ“特種製紙さん(東海製紙さんとの合併前)が作っている紙”だったようで、時代を感じます。

このように、作っているメーカーさんの名前が変わっても紙自体は変わらず残り、上市から30年近く経っているにも関わらず、古臭い感じもせずに使われ続けているというのは、紙ならではの良さだと思います。ちなみに、今回のニューズレターQの用紙はTANT Y-8 <70>です。一般的なレーザープリンタで印刷できます。いつもとは違う手触りをご堪能ください。

いやあ、紙って本当に素晴らしいもんですね～。

(M)

特集

- ・100号を迎えて
- ・スギウラ㈱の紹介
- ・100年前の紙の歴史
- ・第1号の頃に生まれた赤ちゃんがもう小学3年生

スギウラ株式会社
〒370-0006
高崎市問屋町2-2-8

電話番号
代表
027-361-5808
営業1部
027-361-5734
営業2部
027-361-5780

Fax
027-361-1272

当社Webサイト
www.kamisugiura.co.jp

お気付きの点や質問、疑問などありましたら、ご遠慮なく営業または、下記までお問合せください。

お問合せ
メールアドレス
sg-okamoto
@kamisugiura.co.jp

100号を迎えて

弊社の『ニューズレターQ』が創刊以来今号をもって100号を数えることとなりました。これもひとえに、お客様方皆様のご支援ご愛顧の賜物と心より感謝申し上げますとともに、篤く御礼申し上げます。

振り返ってみますと、若手社員から、我が社もお客様に向けて情報発信をしましょうよと提案されたのがきっかけで、それじゃあやってみようかと言って第1号が出たのが2007年(平成19年)7月1日のことでした。当初はA4裏表2ページの簡単なもので、対象のお客様は営業一部の印刷会社様や紙器会社様がメインでした。制作担当者は営業マンですから、数字に追われる中で締切にも追われ、毎月ネタ探しに苦労したことと思います。内容は印刷用紙や紙器用板紙に関連するものが殆どでしたが、新製品のご案内やキャンペーンのお知らせ、紙の豆知識など紙面づくりに知恵を絞り、お客様のご支持も頂いて号を重ねることが出来ました。その後2010年5月1日号(第35号)からは営業二部も制作に加わることになり、紙おむつやティッシュ、トイレトペーパー、ペーパータオルなどの家庭紙のお客様向けの内容も加わって、A3二つ折り4ページの現在の体裁になりました。

担当者の中には、大人になってから長い文章を書いたことがないものもあったようで、お客様に読んでいただける文章になるまで大変苦労す



代表取締役社長 杉浦幸男

ることもありました。また、どこからそっくり丸写したような文章を持って来て突っ返されたものもありました。そんなことを繰り返しながら、小紙は弊社営業マンの文章力強化にも随分役立ってくれました。

創刊のときにはもちろん長く続けることを目指していたのですが、お客様は読んで下さるのだろうか、ネタは続くのだろうかなどと不安も感じていました。ですからお客様が「ニューズレター面白いね。社員にも読ませているんだよ。」と仰ってくださるのを聴くと本当に嬉しいものでした。やはりお客様の力が何よりなのです。

今月号は100号記念ということで社内の各部を写真入りで紹介させて頂いております。日頃お客様との接点が多い部署と少ない部署がありますが、社員全員がお客様第一と考えて日々努めておりますので、どうぞよろしくお願申し上げます。

めでたく100号を迎えた小紙ですが、自分たちでネタを拾い、拙くても自分たちで考えて文章を書き、自分たちでレイアウトして発行しています。ほんのわずかでもお客様のお役に立てれば、また紙面から少しでもスギウラを感じて頂ければこれに優る喜びはございません。これからもお客様の心と私どもの心を繋ぐ大切なツールとしてずっと続けて参りたいと存じます。どうぞ末永く『ニューズレターQ』を可愛がってくださいませようお願申し上げます。



スギウラ(株)の紹介

100号を記念して、スギウラ(株)ってどんな会社か、普段みなさまと顔を合わせている営業ではなく、それ以外の部署を中心に自己紹介させていただきたいと思います。まず、スギウラの窓口である業務部、次に縁の下の力持ち総務部、最後に物流の要である商品管理部の順に紹介させていただきます。各部署のメンバーの写真を掲載しますので、少しでも会社の雰囲気をわかっていただければ幸いです。

業務部

業務部はスギウラの総合窓口です。

商品の受注と発注、伝票や書類の作成、社内外への連絡・折衝、電話やご来店のお客様への対応など、多岐にわたる営業事務全般を受け持ち、お客様のため他部署のため陰に日向に日々奮闘しております。

営業や配送のように直接お客様のところへ伺う機会こそ少ないですが、毎日様々な人と会話を交わし、ある意味では最も多く人と関わる機会のある部署です。直接お金を儲けられる仕事ではありませんが、社内で最も多くの情報を得られる立場を生かし、また社内で最も高い女性比率（およそ75%！）によるこまやかな心遣いで会社全体をスムーズに動かすのが我々の使命です。

お客様・他部署・ビジネスパートナーたる仕入先様……様々な人と人とを繋げ、その繋がりの中で仕事をさせていただいていることを日々感謝し、少しでも多くのお客様により多くの満足をお届けできるよう、これからも部員一同さらに精進してゆきます。

(佐)



総務部

そこは、最も奥地に存在した。得意先の方、仕入先の方、商品等にも 出会うことは、めったにない。

そこは総務と呼ばれる部署。

そこに生息する4人は、日々 PC を主に使って暮らしている。入金、支払の処理を行い、給与関係を入力する。様々な紙を扱う紙屋の一員である筈なのに、ふだん触れる紙は、書類としてのPPC、紙幣・小切手・手形である。あとは、入社・退社等の手続きを行ない、健康診断の手配を行う。備品の購入管理や営繕も仕事としている。

4人の生態は完全には明らかにはなっていないが、異様な程の百均好きが一人いることは確認されている。4人は他の部署の事が気になるので、ひそかに 出没もしているらしい。自ら修理したり、工作(経理上の工作ではない)している姿も発見されている。

お客様への満足を第一に考えるスギウラ株式会社。そこには、陰から社員の助けになるよう考えている、そんな部署がある。

(富)

商品管理部

私たち商品管理部は主に配送・倉庫・断裁からなっています。

まず配送についてですが、トラックが大小あわせて11台で、洋紙・板紙・家庭紙等を県内全域及び近県の印刷会社・病院・施設・ドラッグストア・学校等に配達をしています。

わが社の経営理念である「お客様にご満足いただける質の高いサービスを提供する」ことができるよう、配達一同日々努力しています。また、社員全員で取り組んでいるエコアクション21を環境方針として、常に環境を意識した地球に優しい運転と安全運転を心掛けています。

紙と一言に言っても、一枚一枚はぺらぺらですが、250枚で包装してあったり、8000mの巻取であったり、コピー用紙のような箱など様々で、実は非常に持ちづらかったり、重かったりします。たまに腰などを痛めたりもしますが、持ち方のコツや慣れで何とか工夫しながら頑張っています。また、何といても紙ですから水濡れ、湿気は大敵です。雨の日などはより注意しながら、自分は濡れても商品は濡らさない心構えで、積み込み・配達を行っています。

そして、配達一同『元気で楽しい会社』を目指しながらこれからも日々精進していきたいと思っています。

100年前の紙の歴史

100号にちなみまして、100年前の1915年はどんな時代だったのか調べてみました。1915年は大正4年で、芥川龍之介の『羅生門』が発表されました。今年の芥川賞にお笑い芸人、ピースの又吉さんが『火花』で受賞され話題になりましたね。

紙の歴史関係では、京都のあぶらとり紙などを扱っている彩響舎さんが、本の表紙や貼箱などに良く使われる、紙クロス(布のような風合いの紙)製造に1915年に着手して、2年後の1917年に国内で初めて完成することができました。

紙商品のお話ですと、2013年にアメリカのワシントン州で行われたオークションで、1915年に発売されたスナック菓子のおまけのベースボールカードが1枚459万円で落札されニュースになりました。ベースボールカード以外にも人形や切手など、興味のない人にとっては価値がないものでも、コレクターには何十万～何百万も出す価値があるので面白いものです。

用紙の需要も大きな変化がありました。日本は1900年頃に用紙の生産量は50万t/年でしたが、

次に倉庫ですが、倉庫は洋紙(自動ラック)・板紙・家庭紙の3種類あります。自動ラック倉庫には1400種類以上、板紙倉庫には250種類以上、そして家庭紙倉庫には500種類以上の商品が保管されています。

安全を第一に考え、お客様に届ける商品が破損しないよう丁寧に荷さばきをして、配送担当者がスピーディーに積み込みできるようなサポートをしながら、倉庫管理を行っています。

最後に断裁は、安全第一に考え日々作業をし、2～約500切までの断裁を正確・丁寧・迅速を目指し、お客様にご満足していただけるように努力しています。断裁に関して何かありましたら遠慮なく(やさしく)ご指摘ください。(断裁オペレーターは誉めて伸びるタイプです) よろしくお祈りします。

(川)



(須)